

わかやま母親通信

第74号 2019年6月29日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール：w_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は
生命を育て
生命を守ることをのぞみます

2019/6/16(日)第64回和歌山県母親大会 in 橋本市を開催 HP:和歌山県母親大会

地域に根ざして 誰もが元気になる母親大会に！

「^{いのち}生命を生み出す母親は ^{いのち}生命を育て ^{いのち}生命を守ることをのぞみます」の一つの想いで結ばれて、母親大会は60年以上歩み続けてきました。

戦後、初めて人間としての自由を得て女性の権利に目覚めた母親・女性たちは、全国各地で、「原水爆反対」の署名活動に立ち上がり、「核戦争から子どもを守ろう」と草の根の母親運動を広げました。和歌山県でも、毎年母親大会に集まり、願いと運動を交流し、学び合い、切実な要求を実現させてきました。

64回を迎えた今年、橋本市・伊都郡内の自治体と教育委員会、和歌山県及びマスコミ6社から後援をいただき、和歌山県母親大会を開催しました。

午前は、要求や情勢に合致する分科会とともに、現地の努力と創意が結集した特色ある分科会が作られました。午後の全体会では、戦争の歴史を学び語り継ぎ、平和を守る努力をし続ける大切さを再確認することができました。

数年来模索してきた母親大会の未来の道は、「地域に根ざして 誰もが元気になる集いの場を創り続ける」ことだと、この大会で一層明確になりました。

これは、今年の大会宣言の一説です。60余年ひたすら平和を願い、子どもの幸せと人としての当たり前の暮らしを求め続けて、母親・女性たちは母親運動を進めてきました。この数年、「時代にあった」「時代に求められる」母親大会を模索する中で、「地域に根ざして 誰もが元気になる」母親大会の未来の道が見えてきたと思います。

そして、大会宣言は、次のように締めくくっています。

主権者は、私たちです。世代を超え、地域を超えて結び合い、「戦争する国づくり」「民主主義の破壊」「民意軽視」は許さない、「平和外交を」「憲法をいかして国民のための政治を」と、声を挙げ行動の輪を広げていきましょう。

だまされない。あきらめない。立ち止まらない。

各地から、みんなの願いと運動を持ち寄り、また来年お会いしましょう。



フィナーレの全員合唱

記念講演 『ズッコケ三人組 平和を語る』

～戦中・戦後を生きた児童文学作家として、未来にたくす想い～



児童文学作家 那須 正幹 氏

山口県にお住まいなので、早朝からお越しいただきました。喜寿をお迎えだとのことですが、背筋を伸ばして歩かれるお姿は、氏の凜とした生き方そのものでした。

3歳の時広島で被爆し戦後生きてこられたこと、たくさんの作品に託した想い、平和と民主主義を大切に思って行動されていることなど、時にユーモアを交えて、淡々と語って下さいました。そのお話の内容を、参加者の感想文から感じとって下さい。

子どもの頃、ズッコケ三人組が大好きで、よく読んでいましたが、那須さんが被爆者であることを知りました。本もとてもおもしろかったのですが、講演もユーモアがあって、あっという間に時間が過ぎました。

小学校で勤めていますので、原爆のこと、戦争のことを、子どもたちに伝えていかなければと思いました。我が子も、資料館へ連れていきたいです。

1942年広島に生まれ、本読みが苦手な人が作家になるなんてね。

福島へ激励行った時、6年生の女の子が「私たちは30歳くらいで死ぬのかなと思ってたのに、那須先生は70歳を超えて、元気に私たちの所へお話に来てくれて、うれしかった」という話にグッときました。原発と核の話は根っこが同じです。

次世代につなげる運動の大切さを改めて噛み締めました。あの日起こったことを忘れないで、次に伝えることが大切さを知り、戦後生まれの私に、いい学習になりました。

戦後に生まれた自分(S.38)ですが、私は、結婚するまでの23年間、長崎で育ちました。小・中・高と、8月9日は登校日で、平和学習、黙祷が当たり前のように育ちました。原爆や戦争を経験していなくても、平和への思いはとても強くなりました。結婚して和歌山に来て、8.6 8.9を知らない人(原爆を広島と長崎に投下されたことは知っていても)が多くいること、8/6の8:15、8/9の11:02にサイレンが鳴らないことに、とても驚き、ショックでした。自分でタイマーをかけて、黙祷しています。平和であることを祈ります。

被爆者としての苦しさ、大変さ、不安、悩みなど、きっとあったと思いますが、ひょうひょうと語られる姿に、強さと信念を感じました。ダメなものはダメ、平和であるために努力が必要であること、マスコミに乗せられては、大変なことになる、改めて考えさせられました。…どうか、長生きして、みんなに伝え続けて下さい。私たちも、わたしたちにできることをがんばります。

橋本市立高野口小学校と橋本市産業文化会館をお借りして開催し、午前の15の分科会には、子ども44名を含む496名が参加し、大会要員も含めると565名となりました。

分科会の感想や申し合わせ事項については、次号に乗せたいと思います。

13時10分、午後の全体会は地元の紀の国やっちゃんの元気・艶やかな踊りでオープンし、横山さゆり実行委員長が開会挨拶をしました。

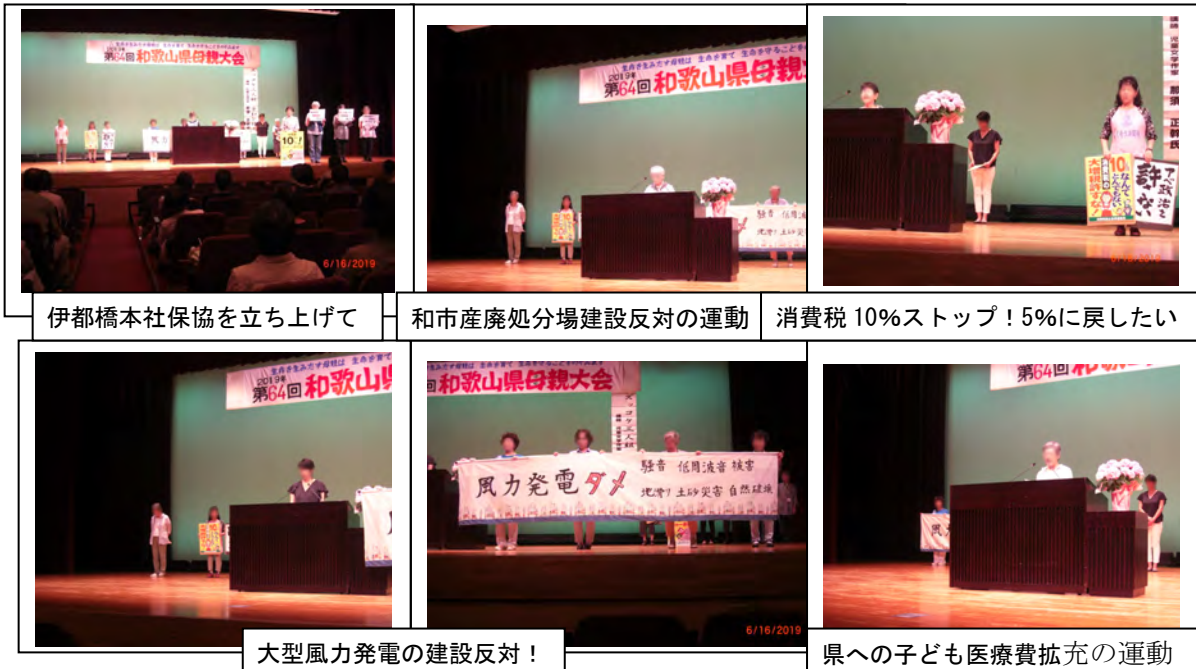


真田ちやいるどのみなさん 6/16/2019



猛烈舞組のみなさん 6/16/2019

今年も、各地の多彩な要求運動や取り組みが発表されました。



伊都橋本社保協を立ち上げて

和市産廃処分場建設反対の運動

消費税10%ストップ!5%に戻したい

大型風力発電の建設反対!

県への子ども医療費拡充の運動

また、会の半ばには、「生活破壊の消費税10%増税反対!」「カジ/に頼らない町づくりを!」の2つのはがき行動を提起し、最後に、「9条は人類の宝!安倍政権による改憲反対!憲法のいきる日本に!」を決議しました。

そして、フィナーレは、実に長い間、伊都橋本地方の母親運動をけん引してこられた内田恵美子現地実行委員長の閉会挨拶の後、『いまわたしたちは』の全員合唱で感動のうちに閉会しました。終了後、那須さんのサイン会があり、にぎわいました。

安倍改憲は許さない。全体会の最後に採択した特別決議です。この決議を広げ、憲法を守る取り組みいかしていきましょう。

決議：9条は人類の宝！安倍政権による改憲反対！憲法のいきる日本に！

自民党・安倍首相は、7月の参院選の選挙公約を発表し、改憲を大きな争点として戦い、立党以来の党是である「憲法改正」を成し遂げようとしています。

安倍首相は、「憲法に自衛隊を明記し、違憲論争に終止符を打とう」とし、憲法記念日には「2020年新憲法施行という気持ちに変わりはない」と改憲団体にメッセージを寄せ、強い執念を繰り返し公にしてきました。メディアを総動員し、「令和の時代にふさわしい憲法づくり」などと、あたかも新しい時代が始まるかのよう改憲を誘導しています。

さて、その自民党改憲案はどのような内容なのでしょうか。

9条に「自衛隊を明記」すれば、今すでに、辺野古新基地工事の強行、護衛艦の空母化、大量買いしたF35 ステルス戦闘機の配備が進む現状の下、「1ミリも変わることはない」など、だれが信じるでしょうか。「違憲論争に終止符を打つ」とは、国民の大反対を押し切って強行したあの「戦争法」の違憲性を解消することです。そうして、自衛隊が憲法上の公共性を持つようになり、日本社会は軍事優先の社会へと変貌してしまいます。「集団的自衛権行使」の名の下、地球の果てまで米軍と行動を共にできるようになるのです。軍事協力への強制が一人一人の国民生活に及び、軍拡予算に歯止めはなくなり、消費税は軍事費として「消費」されてしまうかもしれません。

そもそも、私たちは憲法を変えてほしいと希望していません。戦後の教育を受けた私たちは、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」という日本国憲法の3原則を、何度も何度も誇りをもって唱え、この憲法に守られて、明日の夢を紡ぎ、戦後の74年を生きてきました。とりわけ、非戦を誓った9条は人類最大の夢です。9条は、広島長崎への原爆投下を含む日本310万人、アジア諸国2000万人以上の、生を全うできなかった人たちの遺言であり、アジア諸国への平和の誓いでもあります。

この9条を守り、自由で民主的な平和国家を次の世代に引き継ぐのは、今を生きる私たちの責任です。私たちには“不断の努力”が求められています。「武器よりくらしを、教育を」の声を上げ続け、この改憲策動を葬り去り、憲法のいきる日本を必ず次の世代に手渡しましょう。

以上、今大会の名において決議します。

2019年6月16日
第64回和歌山県母親大会